

検討会現地調査 当路地区環境保全会との意見交換 概要

日 時 令和元年11月22日(金) 10:40～11:40
場 所 厚沢部町 当路ふれあいセンター
出 席 者 別添「出席者名簿」のとおり

(1) 厚沢部町の農業概要について

厚沢部町農林商工課より別添資料により厚沢部町の農業概要を説明

(2) 当路地区環境保全会の取り組みについて

当路地区環境保全会より別添資料により組織の取り組み概要 を説明

(3) 意見交換会発言要旨

(○～構成員、●～厚沢部町又は当路地区環境保全会)

- 当組織は、比較的小規模でまとまりがよく、老人クラブや鹿子舞保存会とも深く連携しながら活動している点が特徴かと思う。
資料にもあるが、春の農地及び施設の点検、機能診断を役員と構成員で実施しているが、具体的にどのように点検等を行っているのか。
- 4月10日過ぎから、頭首工の点検を行う。
その後、通水前に用水路の点検を実施し、侵入防護柵の点検や水路にゴミが詰まっていないかを見て回る。
最後は、構成員全員に破損箇所や補修が必要な箇所を聞き取り、年間の補修計画を立てている。
- 用水路は、11kmあるが、手分けして点検を行っているのか。
- 全て参加者全員で見回っている。用水路だけでなく、排水路や畦畔の点検も全員で一斉に行っている。
- 図面を見る限り、非常に整備されており、耕作、保全管理がしやすいように思う。
町内他の地域も同様か。
- 当地域は、農業農村整備事業にて整備されているが、町内には、不整形なほ場のところもある。
- 整備の行き届いたほ場の地域では、後継者の充足率も高くなる傾向だが、当地域はどうか。

- この地域は、後継者が多いと思う。
- 人口が減少し高齢化も進んでいるとのことだが、高齢者は活動に参加しているのか。
- 高齢者も活動に参加している。農業者と一緒にみんなで集まって、楽しみながら活動を行っており、地域コミュニティの活性化に繋がっている。
 - やはり、家にこもっているばかりでは高齢者も元気にならない。どこの農村集落でも地域の高齢化は共通の課題だと思うが、いかに高齢者に外に出てもらおうかが重要と考える。
 - この交付金は、非農家でも活動に参加することで日当が当たる。対価をもらえることで、高齢者のモチベーションも高まり、より積極的に参加してくれる。
 - 今後も無理をさせず、けががないように注意しながら、活動に参加できる体制を整えていきたい。
- とてもよい取組。高齢者にも地域での役割をもたせることが大事。
- ただ参加してほしいと声をかけても、参加の動機付けが難しい。
 - 参加への動機付けとして、日当が当たるということが呼び水となって、実際に参加することで、高齢者の生きがいになり、コミュニティの向上や地域の活性化にも繋がる。
 - この交付金に取り組む効果の一つだと思う。
- 当路鹿子舞保存会と連携して、伝統文化の保存にも取り組んでいるようだが、地域の子供達にも踊りを教えるなど、伝統文化の継承の活動も行っているのか。
- 子供達への継承も行っているが、子供や若い人の人数が少なく、後継者不足が課題。
 - 保存会では、地域のお祭りなど、年5～6回披露する場があり、最低10人は踊り手が必要だが、後継者不足もあり、保存会だけではぎりぎりの人数のため、不足する場合は、活動組織から踊り手を出す。そのかわり保存会は、草刈り等の活動に参加するという相互の協力体制が確立している。
- 農道の砂利敷きに再生アスファルト骨材を使用しており、比較的新しい取組をしているが、どこから情報を収集し、取組を行うこととしたのか。
- 情報は、町や土地改良区から受けている。
 - 我々も町等に、「こういった活動は、交付金の使途対象となるか。」等を問合せしており、その中で、再生アスファルト骨材の使用や施工方法について情報提供を受けたことがきっかけで、その後地域で話し合い施工することに決めたところ。
- 町の資料に「スマート農業」に関する記載があるが、当地域では取り組まれているのか。

- この地域では、3名の農業者が取り組んでいる。また、ドローンの活用についても今後取り組みたい旨の相談を受けているところ。
- 全道的には、この事業で有害鳥獣や外来生物の駆除に取り組んでいる活動組織が多い。特にアライグマが問題になっており、駆除を行っている組織があるが、この地域ではどうか。
- アライグマはまだいないが、鹿への対策が必要となっている。地域からの要望もあることから、来年度からこの交付金を活用した対策を考えている。

以 上